

第10回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

令和2年の耳川流域の概況

令和3年7月21日

～令和2年耳川流域の特徴～

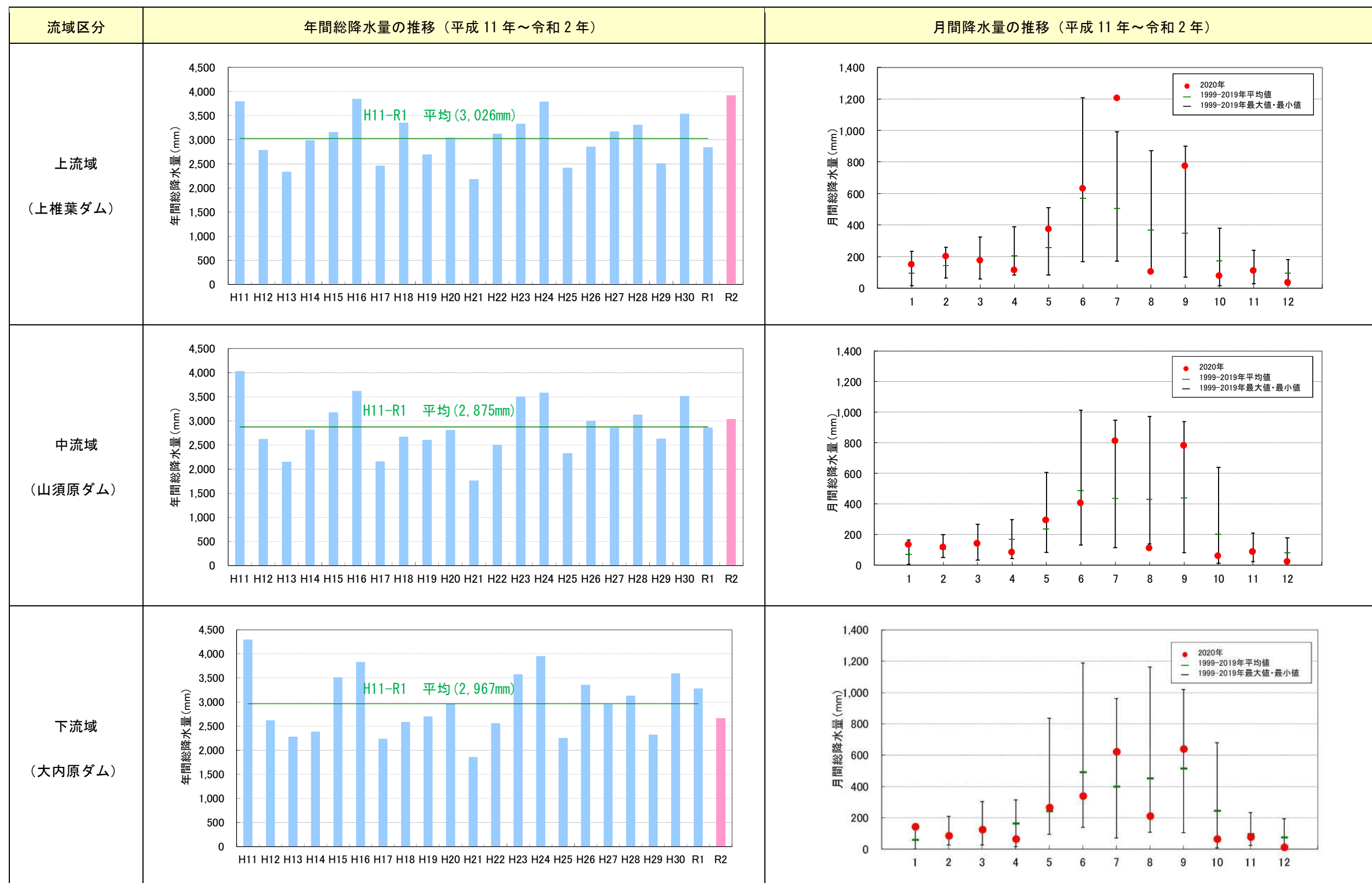
- 令和2年の年間降水量は、上・中流域で平均（平成11年～令和元年）より多く、上流域では平成11年以降1番多い年であった。
- 令和2年の主な出水は、前線（7月3～13日）、台風10号（9月7日）であった。
- 令和2年で最も大きかった台風10号（9月7日）の出水規模は、山須原ダムでは、最大流入量が1,975m³/sであり、平成19年度（2,015m³/s）と同程度であった。
- なお、大内原ダムでは、最大流入量が2,500m³/sであり、平成17年以降最も大きい最大流入量を記録した。

1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

令和2年の年間降水量は、上・中流域で平均（平成11年～令和元年）より多く、上流域では平成11年以降1番目に多い年であった。

令和2年の月間降水量は、中・下流域で平成11～令和元年の変動の範囲内であったが、上流域の7月は変動幅を超過した。



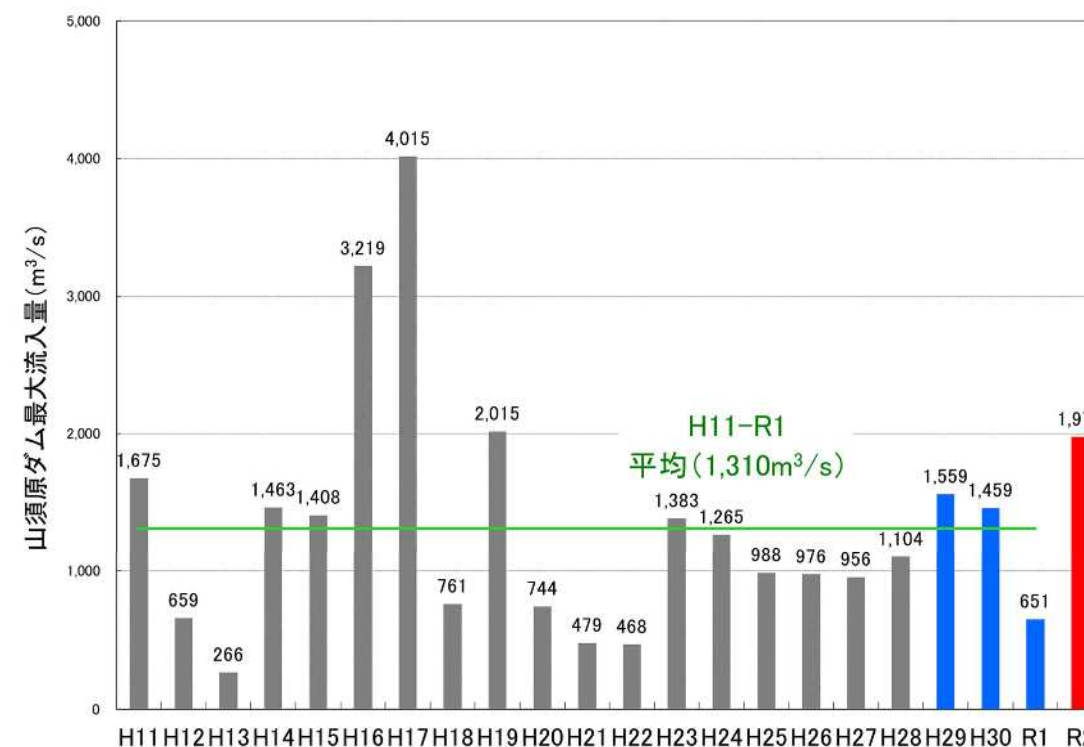
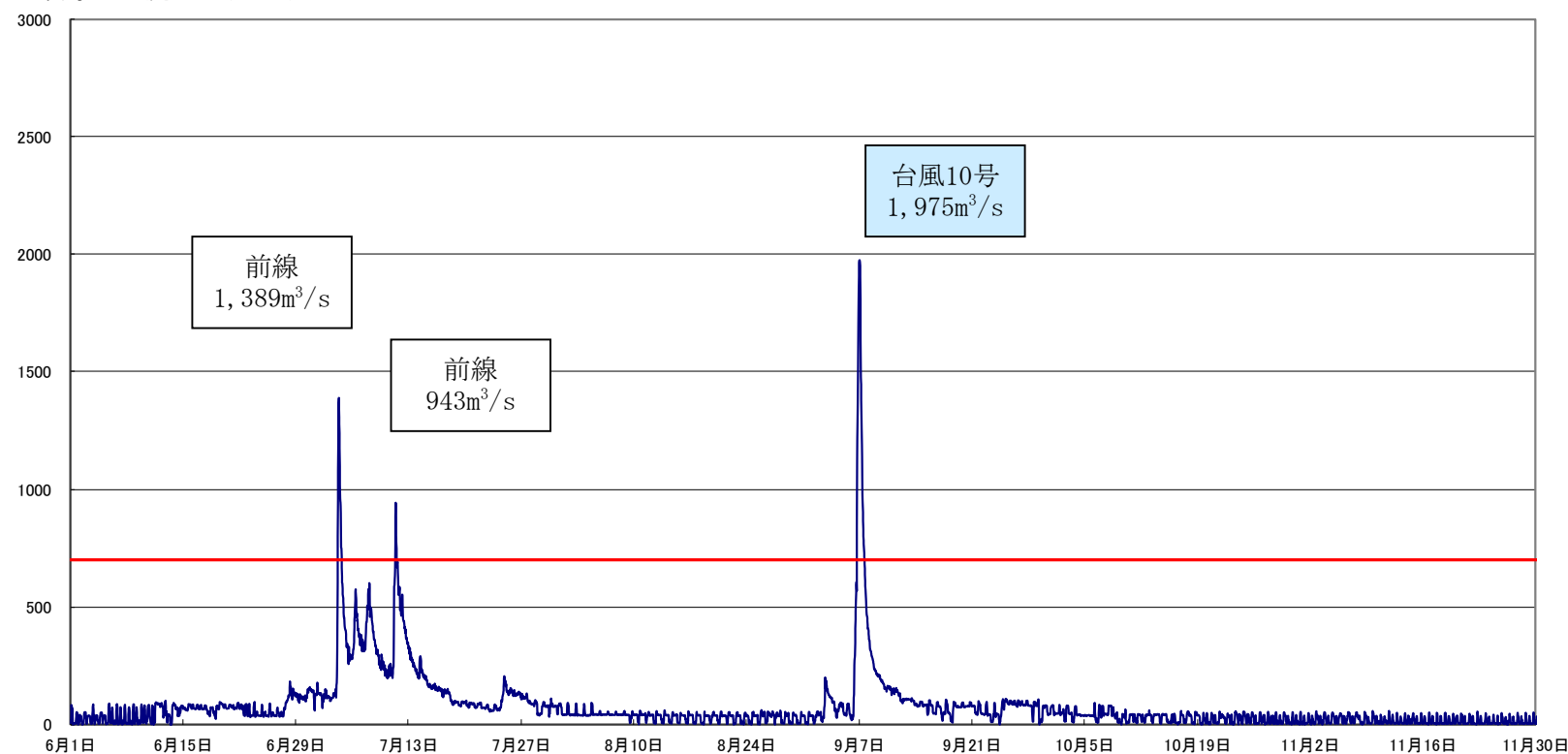
2. 出水の概況

令和2年の主な出水は、前線性出水（7月3～13日）と台風10号（9月7日）であった。

令和2年で最も大きかった台風10号（9月7日）の出水規模は、山須原ダムでは、最大流入量が1,975m³/sであり、平成19年度（2,015m³/s）と同程度であった。

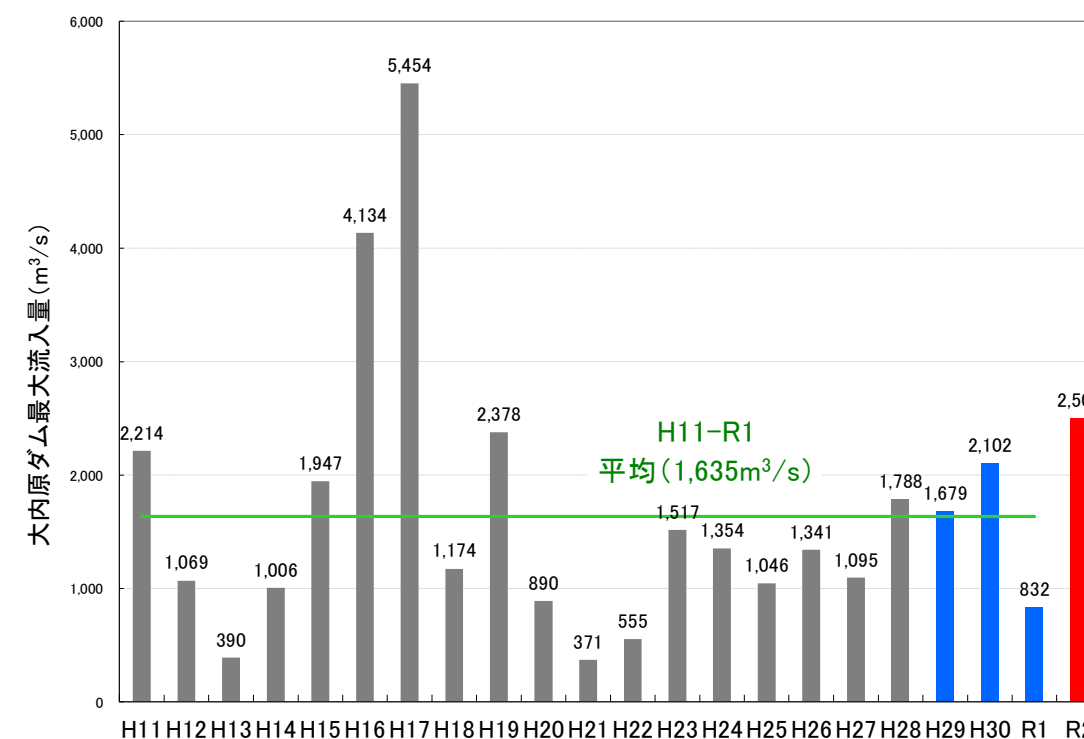
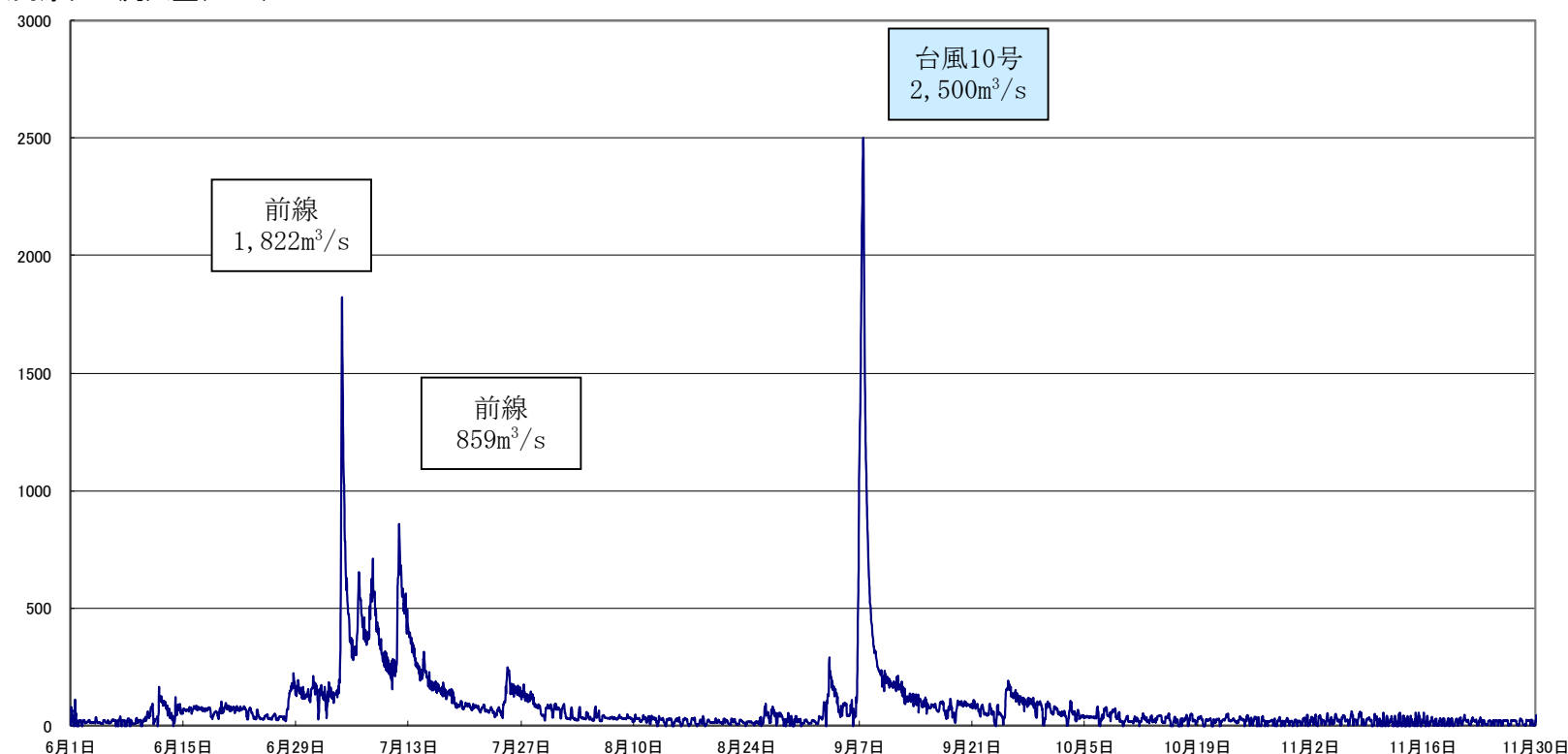
一方、大内原ダムでは、最大流入量が2,500m³/sであり、平成17年以降最も大きい最大流入量を記録した。

山須原ダム流入量(m³/s)



年間最大流入量の経年変化

大内原ダム流入量(m³/s)



年間最大流入量の経年変化